

炎天下の雑草

森野かずみ



スベリヒユ



暑い日が続きますが、今月7日は「立秋」です。この日を過ぎると、朝夕に何となく秋の気配が感じられるようになり、季節のあいさつも「残暑見舞い」に。アブラゼミに代わり、ツクツクボウシが鳴き始める頃でもあります。

さて、エゴマ油で知られるオメガ3脂肪酸を多量に含む、いわゆる雑草の「スベリヒユ」をご存じでしょうか。アスファルトで舗装された歩道の隙間など、直射日光をまともに受けて気温40℃以上になるような場所でもよく見かけ、畑でも害草として生育しています。

和名は、ゆでた際に出るぬめりに由来していると言われ、スベリヒユ科スベリヒユ属の多年生植物です。全体に多肉質で、茎は赤紫色を帯び、地面をはって分枝します。葉はへら状で互い違いに付き、直径7ミリ前後の黄色い花を咲かせます。おしべに軽く触れると、触れた方向に曲がる性質があります。5枚の花弁は日が当たると開き、暗くなると閉じることから、観察は午前中がおすすすめです。

私は農薬などの使用状況を確認した上で、農家や家庭菜園の畑で大きく育ったスベリヒユをもらい、根を取り除き、塩を一つまみ入れた熱湯で軽くゆで、水にさらしてアクを抜き、枝をそろえて切り、酢みそで和えます。酸味が強いので多くは食べませんが、暑い日に飲むビールによく合うおつまみになります（食べる際は自己責任で！）。ちなみに、トルコヤギリシヤでは野菜として扱われています。

炎天下でもたくましく生えるスベリヒユを探しながら、残暑の散歩をお続けください。

※ Kaceeのホームページでカラー写真をご覧いただけます。